

ご挨拶：リーディング大学院 PWS の説明

中間シンポジウム配布資料 2014-08-29 理学部セミナーハウス

日本学術振興会の「博士課程教育リーディングプログラム」として、「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」が採択された。英文名称は、Kyoto University Leading Graduate Program in Primatology and Wildlife Science. 英文略称をPWSとする。平成25年10月1日に正式に発足した。当初予定で7年間の支援を受けたプログラムである。詳細は、以下のホームページで確認いただきたい。

<http://www.wildlife-science.org/index.html>

そもそも博士課程教育リーディングプログラムは、日本学術振興会によれば、「優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーへと導くため、国内外の第一級の教員・学生を結集し、産・学・官の参画を得つつ、専門分野の枠を超えて博士課程前期・後期一貫した世界に通用する質の保証された学位プログラムを構築・展開する大学院教育の抜本的改革を支援し、最高学府に相応しい大学院の形成を推進する事業」である。詳細については、以下のサイトを参照されたい。

<http://www.jspss.go.jp/j-hakasekatei/>

「リーディング大学院」と略称される本プログラムには、3 類型がある。その類型と採択件数を示す。オールラウンド型 7 件、複合領域型 34 件、オンリーワン型 15 件、合計 30 大学に 56 件が採択されている。PWSはオンリーワン型である。オンリーワン型とは、「新たな分野を拓くリーダーを養成する、世界的に独自の優れた資源を生かした学位プログラム」あるいは「独自の資源を生かした学位プログラム」で、その構築に対して支援するものである。京都大学には5件のリーディング大学院がある。そのうちオールラウンド型の京都大学大学院思修館だけは、総合生存学研究科という独立研究科をもっている。それに対してPWSは、理学研究科生物科学専攻を母体とする「学位プログラム」である。博士課程教育を修了した者には、博士（理学）の学位に、なお書きとして「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院を修了した」むね記載される。

ここでいう「学位プログラム」とは、①博士課程において、どのような人材を養成するのかを明らかにし、②専攻の枠を超えて、担当する教員によって組織的な教育・研究指導体制を構築し、③教員間の綿密な協議に基づき、学生が修得すべき知識・能力を具体的・体系的に示し、④一貫性のある教育を通じて、その課程を選択した学生に必要な知識・能力を修得させ、その証しとして学位を授与する、という①～④の要素を1つのプログラムとしてとりまとめたものである。

PWSは、フィールドワークを基礎とした実習を主体とする学位プログラムである。以下の8教科が最初の2年度での必修科目になっている。略称で、「インターラボ」「幸

島」「屋久島」「ゲノム科学」「比較認知科学」「動物園」「笹ヶ峰フィールド実習無雪期」「笹ヶ峰フィールド実習積雪期」である。座学としては、一般教養の涵養をめざして、英語でおこなう「アシュラセミナー」と、日本語でおこなう「ブッダセミナー」の2科目がある。なお、多言語習得が推奨されている。これは、自学自習を基本として支援する体制をとる。こうして用意された実習科目等とは別に、履修生の個々人が自主的に取り組むべき「自主研修」が推奨されている。国内外のフィールド等において、自主的に計画を立てて実行する。

PWSは、京都大学の組織としては、国際融合教育研究推進センターのユニットという位置づけである。ただし、その雇用はすべて野生動物研究センター所属の教職員とした。したがって、事務組織としてみれば、PWSは野生動物研究センターWRCが所轄する事業のひとつである。ただし、霊長類研究所と野生動物研究センターの2部局が協力して生物科学専攻の「霊長類学・野生動物系」として大学院教育を担っているので、2部局に理学研究科生物科学専攻それ自体を加えて、野生動物・霊長類・理学の3部局が協力しておこなうプログラムである。

PWSの運営は、毎月開催される協議員会で審議しておこなう。協議員会は、PWSプログラムの分担者である京都大学の専任教員で構成され、野生動物研究センター等の事務部が陪席する。なお、ヘッドクォーター制を採用し、コーディネーターを含めて8名の合議で実施している。平成26年8月末の時点で、HQは、松沢哲郎、平井啓久、湯本貴和、友永雅己、幸島司郎、伊谷原一、山極寿一、阿形清和の8名である。平成25年度の後半の半年間で実施の枠組みを作り上げてきた。なお、PWS関係の教職員は、実習の場所が国内に分散しているので、その任地は、京都、犬山、熊本、幸島となっている。

PWSの履修生選抜を、平成25年3月6-9日のキックオフシンポジウム（国際高等研究所で開催）でおこなった。L1に6名、L3（博士課程回生への編入生）4名を選抜した。この10名を対象に、4月から8月まで事業をおこなってきた。今回の中間シンポジウムの目的は、3つに要約できる。

- 1) PWS履修生の中間発表をする。
- 2) PWS雇用者が全員集合する。
- 3) PWS分担者・事務職員等の関係者全員が一堂に会する。

そうした機会をもつことで、事業の現状を確認し、将来を展望し、それぞれの立場から意見や情報の交換をして、PWSをより良いプログラムにすることである。なお、リーディング大学院の将来の志望者を含め、PWSに関心をもつ人々についても参加いただくものとした。なお、プログラムの性格上、原則として英語を公用語とする。

以上、概要と主旨を述べた。かくも多忙な時期に、ご参集いただいた各位に、厚く感謝したい。また、シンポジウムを可能にした教職員学生のみなさまの努力に感謝したい。

PWSコーディネーター、松沢哲郎